

祖父の命を救った社会と税

北本市立宮内中学校 3年 小森 巧也

私は初めて、人の命が社会と税に支えられていることを実感しました。私の祖父は、秩父で林業の仕事をしています。今年四月、祖父はいつもどおり山へ行き、一人で伐採作業を行っていました。ところが、突然頭上から大きな石が落ちてきて、祖父を直撃しました。祖父は頭部に大量の出血を伴う大きな切り傷を負った上、斜面を転落し首の骨と背骨を折る大けがを負いました。

事故の後、祖父は携帯電話で祖母に事故にあったことを連絡しました。祖母は現場に急行し、祖父を小鹿野町の町立病院に搬送しました。しかし、町立病院では手に負えないということで、祖父は救急車で東に約八十キロ離れた川越市の病院に搬送されました。

祖父が川越市の病院に搬送されたのは夜の七時頃でしたが、既に連絡を受けていた病院は祖父のために体制を整え、搬送次第速やかに応急手当をし、祖父はそのまま集中治療室に入院となりました。その後祖父は大きな手術を受けた後、二か月後に秩父市の別の病院に転院しました。秩父市の病院ではリハビリを行い、八月下旬にようやく退院することができました。

今回の事故で祖父の命が救われたことを通じ、私は次の三つのことについて考えました。

一つ目は、完璧な医療体制です。町立病院は、祖父のけがの状態を正確に判断してくれました。救急隊は、遠く離れた川越市の病院まで無事に搬送してくれました。川越市の病院は、重傷を負った祖父の応急措置を行った後、骨を固定する大きな手術を行ってくれました。秩父市の病院は、祖父にリハビリを通して、退院ができるまでに寄り添ってくれました。祖父の命を救うため、三つの病院と救急隊がそれぞれの役割を果たす体制が整っていたことと、その役割を十分に発揮してくれたことに、大きな安心感を持ちました。

二つ目は、高度な医療やリハビリを受けることができる社会保障のありがたさです。年金で生活している高齢者が、負担を心配することなく高度な医療を受けられることは、とても幸せなことだと感じました。

三つ目は、インフラ整備の大切さです。携帯電話がつながったこと、山間部から市街地に通じる道が拡幅されていたこと、秩父から川越までの約八十キロの間、西関東連絡道路と関越自動車道が整備され、交通渋滞もなくスムーズに搬送できたことは幸運でした。いつも使う道路などのインフラのありがたさを、このときほど感じたことはありません。

さらに、このようにいざというときの安心、安全な生活を社会全体で支えることができるのも、全ては税によって成り立っているということが改めて分かりました。祖父の命を救ってくれたこの社会を私たちが守っていくため、これからも税の大切さを考えながら生活していきたいと思えます。